

平成19年度第1回京都大学防災研究所自然災害研究協議会 議事録

日 時：平成19年6月11日(月)午後2時 - 5時

場 所：京都大学防災研究所 水資源環境研究センター演習室(D-1510)

出席者：吉田真吾、山岸宏光(代理：丸井英明)、岡田憲夫、加賀屋誠一、真野 明、
渡邊邦夫、水谷法美、矢田部龍一、善 功企、寶 馨、堀 宗朗、間瀬 肇、
中田節也、藤吉康志、森脇 寛(代理：佐藤照子)、牧 紀男

オブザーバー出席：石原和弘(防災研究所長)、鏡味洋史(前議長)、阿部浩一(代理：
山際敦史 文部科学省防災科学技術推進室長補佐)、佐藤照子(防災科学技術研
究所自然災害情報室長)

事務局：村田 穰(研究協力課長)、角井宏司(研究協力課専門員)

欠席者：飯塚 敦、藤田正治

オブザーバー欠席：なし

(順不同、敬称略)

配付資料：

資料1「平成18年度第3回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録(案)」

資料2「京都大学防災研究所自然災害研究協議会委員名簿」

資料3「自然災害研究協議会 平成19年度の全体計画(案)」

資料4「第44回自然災害科学総合シンポジウム(案)」

資料5「突発災害研究等について」

資料6「各地区部会よりの報告」

資料7「データベース SAIGAI について」

資料8「平成18年度 予算使用状況」

資料9「平成19年度 予算(暫定案)」

資料10「自然災害研究協議会の新パンフレット」

資料11「自然災害研究組織の紹介冊子(案)について」

その他：

- ・ 防災科学技術研究所要覧、防災科研 NEWS 春号
- ・ DPRI Newsletter No. 44

議事に先立って、石原所長、鏡味前議長、山際敦史室長補佐より挨拶があった。

議 事：

鏡味前議長により議題 1～3 を進行することとした。

1．前回議事録の確認 （資料 1）

寶総務より、資料 1 に基づき説明がなされた。資料 1 の 2 ページ下から 3～4 行目の日付の修正(9月 25 日→24 日、9月 26～27 日→25～26 日)、4 ページ目 16 行目の「災害資料」→「災害史料」の修正を行うこととして、前回の議事録が承認された。

2．第 4 期(平成 19・20 年度)の協議会構成について （資料 2）

寶総務より、資料 2 に基づき説明がなされた。

3．議長の選出・挨拶

寶総務より、今期は防災研究所から議長を出すこととなっていることについて説明があり、防災研究所としては岡田憲夫委員を議長として推薦したい旨、提案がなされた。全員異議なしで承認された。

以下の議題については、岡田新議長が進行することとなった。

4．今年度の全体計画 （資料 3）

寶総務より、資料 3 に基づき説明がなされ、今年度の全体計画が承認された。

5．第 44 回自然災害科学総合シンポジウムの開催について （資料 4）

寶総務より、資料 4 に基づき説明がなされ、今年度のシンポジウムが北海道で開催すること及びその予定案が承認された。

6．突発災害調査研究について （資料 5）

吉田委員より、資料 5 に基づいて平成 19 年度に採択・進行中の課題「2007 年能登半島地震の余震に関する調査研究」(代表：金沢敏彦・東大地震研教授、13 機関 20 名が参加。2300 万円)について報告があった。地震は 2007/3/25 に発生。また、防災研究フォーラムについて、2006 年度の災害調査、3/9-10 第 5 回シンポジウム「巨大災害と東京の危機管理」の報告。2007 年度のソロモン諸島地震津波緊急調査、今後の募集予定など。

7．地区部会からの報告および今年度の計画 （資料 6）

北海道地区(資料 6-1)：加賀屋地区部会長より、2007 年度の事業計画などを報告。

9/24-26 自然災害学会、9/27 自然災害シンポ。

東北地区(資料 6-2)：真野地区部会長より、2007 年度の事業計画などを報告。10/31

第6回東北大学災害制御C公開講座、10/31-11/1 第2回震災対策技術展宮城（後援）、1/12-13 東北地区災害科学研究集会、八戸地区の防災市民講演会など。

関東地区（資料なし）： 渡辺地区部会長より、2007年度の事業計画などを報告。11月に市民オープンフォーラムを企画。ポスト災害の救急医療や災害廃棄物についてテーマ設定。防災科技研（つくば）の協力も要請。

中部地区（資料6-4）： 水谷地区部会長より、2006年度の活動報告、2007年度の活動予定などを報告。治水・水防災フォーラム「流域と都市の治水・水防災」「巨大複合災害に備える」等のテーマを検討中。また、伊勢湾台風50周年記念（2009年）として名古屋港における高潮災害シンポを企画。

関西地区（資料6-5）： 矢田部地区部会長より、新任なので活動については今後検討。地域密着型の行事、研究集会など。11/20 土木学会四国支部主催：南海地震四国地域学術シンポジウム（高松）。

西部地区（資料6-6）： 善地区部会長より、2006年度活動報告。本年4月より西部地区資料センターが伊都キャンパス（福岡市郊外）に移転。NDIC ニュース Nos.35-36 発行。データベース SAIGAI の入力状況。九州地区国立大学間の連携事業：防災・環境ネットワーク部会（九州の10大学防災部門の71名が登録）など。2007年度活動予定：2/16 西部地区部会研究発表会。（財）沿岸災害研究センターとの協働研究を開始など。

8. データベースについて （資料7）

牧DB担当委員より、資料7に基づき説明がなされた。科研費（研究成果公開促進費）採択（540万円）。各地区センターへは、謝金65万円程度、消耗品10万円の計75万円ずつ分配。予算執行は、日本自然災害学会から京都大学（自然災害研究協議会）へ移行。これに伴い、予算の執行・管理方法が変更になる。

9. 平成18年度決算報告 （資料8）

實総務より、資料8に基づき説明がなされ、承認された。

10. 平成19年度予算案 （資料9）

實総務より、資料9に基づき説明がなされた。今年度より、文部科学省からの資金的支援が難しくなる見込みである。協議会として支援をさらに模索して7月頃までに予算の目処を付けることとした。

11. 自然災害研究協議会の新パンフレットについて (資料10)

新しいパンフレットが配布された。(協議会会議終了後、渡辺委員より指摘あり。: 地区割りのマップで山梨県は中部地区に色分けされねばならないが、前の版の時から誤って関東地区部会に色分けされていることに注意されたい。増刷時には修正を加えること。)

12. 自然災害研究組織の紹介冊子(案)について (資料11)

昨秋のシンポジウム企画で自然災害研究組織の紹介を行ったが、この種の組織を一覧できる冊子を作成することが今年度の仕事となっていた。予算の都合を見て、今年度中にその実現が可能かどうか検討することとした。

13. その他

中田委員より、以下の3件の報告・話題提供があった。

- ・ 第5回火山噴火予知研究シンポジウムが、5/29-30 東大理学部・小柴ホールで開催された旨、報告があり、概要集が配付された。
- ・ 6/4-5 に地震に関するシンポジウムを東大理学部・小柴ホールで開催した旨報告があった。詳しくは地震研のHPを参照されたい。
- ・ 11/19-23 火山都市国際会議島原大会のリーフレットが配付され、参加・協力の要請があった。

佐藤オブザーバーより、防災科学技術研究所のパンフレット、防災科研 NEWS が配布された。

京大防災研 DPRI Newsletter No. 44 が配付された。

会議終了後、なかじま(JR 黄檗駅そば)にて懇親会を行った。